

説教「信じることと祈ること」

(詩編 31 編 22-25 節 マタイによる福音書 21 章 18-32 節)

2021 年 10 月 3 日宣教 56 周年記念主日礼拝

大串 肇 牧師

「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」 (使 1:8)

わたしたちの仙川教会はこのみ言葉を信じ、この仙川の地に開拓伝道をすすめ、今朝宣教 56 周年記念礼拝の日を迎えました。その間、神の恵みを受け教会は成長し、今日の日を迎えることが出来ました。これはまさに神の導きに他ありません。

しかし今、わたしたちはこの半世紀以上の歴史の中で一番大きな試練に直面しています。昨年来世界中に新型コロナウイルス感染症が拡大し、多くの方々が生命の危機に晒され、実際に多くの尊い生命が失われました。また、今も尚不安と恐怖の中にあります。わたしたちの国は新薬やワクチン等の普及もあり、平静を取り戻しつつあります。しかしながら、まだそのような医療の救済の手が行き届かず、全く希望の見えない国々の人々が大勢いることを覚えて祈ります。わたしたちにとって、信仰と祈りとは切っても切れないものです。神を信じるとは祈ることだと言っても過言ではないでしょう。

さて、イエスは十字架にお付きになるためにエルサレムに入城されました。エルサレムには神殿がありました。大勢の人々がこの神殿に詣でていました。しかしイエスが神殿境内に入りますと、そこには商売や両替人の商売の場、「強盗の巣」と化していました。そこでイエスは人々を追い出して、目に見えない人や身体が不自由な人々を癒されたのです。これが有名な宮清めと呼ばれた出来事です。

その日、イエスは近郊のベタニアに退きました。次の朝、イエスはエルサレムに向かう時でした。イエスは空腹を覚えました(18 節)。すると、実のついていない、葉っぱばかりのいちじくの木をご覧になり、こう述べたのです。

「今から後いつまでも、お前には実がならないように」と (19 節)。すると、いちじくの木はたちまち枯れてしまいました。この出来事は弟子たちにとってもショックでした。なぜそのようなことをなさったのか弟子たちはイエスに尋ねました。すると、イエスは次のようにお答えになりました。

「はっきり言うておく。あなたがたも信仰を持ち、疑わないならば、いちじくの木に起こったようなことができるばかりでなく、この山に向かい、『立ち上がって、海に飛び込め』と言っても、そのとおりになる。信じて祈るならば、求めるものは何でも得られる。」 (21-22 節)

この箇所をめぐるいろいろな議論されています。しかし、あの宮清めの出来事と関連があるように思えます。神殿で問題にされたイスラエルの不信仰に対して、

生きた信仰とはまさに神を信じて祈ることであるとイエスは教えているのです。確かにこの教えを通して神を信じることと祈ることが深くかかわっていることを知ることが出来ます。しかしながら、「求めるものは何でも得られる」と言われていますが、なんでもかんでも、わたしたちの思い通りになるか、というと、決してそうではない、ということです。ここで思い起こしていただきたいのは、イエスが逮捕される直前、ゲツセマネの園で祈られた時のことです。イエスはこう祈られました。

「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに」 (マタ 26:39)。

「信じて祈るならば、求めるものは何でも得られる」は正しいです。しかし「御心のままに」が大事です。むしろ、ここが、祈りはまさに神を信じる信仰の所以です。わたしたちが信じるのは自分ではなく、神です。ですからすべてを神にゆだねることが信仰なのです。

また、いちじくを枯らすことも、山を動かすことも、神を信じて祈ることには、それほど大きな力が働いて奇跡のようなことが起こる譬えとして語られています。確かに、わたしたちは祈りを通してわたしたちの力や能力を超えて素晴らしいことが起こることを実際、信仰を通して見出してきました。しかしながら、山を動かすことも、いちじくの木を枯らすことも、それ自体が目的ならば全く無意味です。使徒パウロはこう述べています。

「たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。」 (I コリ 13:2)

完全な信仰をもち、英雄のような者の祈りだけが聞き届けられるのではありません。わたしたちはキリストの十字架と復活によって救われました。神がわたしたちを愛してくださっているからです。わたしたちのような弱い者でさえ、この神の愛を信じて互いに愛し合い、助け合うことをともに祈る時、必ずや神はわたしたちに力と勇気をお与えて下さるのです。

それがまさに半世紀に及ぶ仙川教会の歴史であり、わたしたちの証です。ですから、これからもこの仙川教会が「地の果てまで」キリストの証人として福音を宣教するために、神は必要とする助けを惜しみなく与えて下さることをわたしたちは疑わず、信じて祈りたいのです。ご一緒にお祈りいたしましょう。